

番号	4	平成29年度公共事業再評価調書		担当課名	道路整備課	
事業名	道路改築工事			事業主体	静岡県	
箇所名	一般国道136号 <small>しもふなぼら</small> 下船原バイパス			関係市町村	伊豆市	
事業採択年度	平成 25 年度		計画期間	平成25年度 ~ 平成30年度		
用地着手年度	平成 25 年度		工事着手年度	平成 26 年度		
再評価理由※	事業採択(H25)後5年間が経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H27年度	H28年度	H29年度見込	計
	2,500		703	802	598	2,103
事業概要	<p>(1) 事業目的</p> <p>国土交通省が進めている伊豆縦貫自動車道「天城北道路」の(仮称)天城湯ヶ島ICが接続する国道414号(伊豆市月ヶ瀬)と国道136号(伊豆市下船原)をつなぐバイパスを整備し、伊豆西海岸方面へのネットワークを強化するとともに、出口交差点の渋滞を緩和し、安全で円滑な交通の確保を目的とする。</p> <p>(2) 事業内容</p> <p>計画概要：延長840m(道路工605m、トンネル工208m、橋梁工27m) 道路幅員 車道6.5m(全幅10.25m) 2車線</p>					
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「天城北道路」が平成30年度に供用される。(公表) 主要渋滞ポイントである出口交差点周辺の交通量が増加。 <p><H22センサス(H17センサス)></p> <p>北側:17,352(14,495)台/日、西側:7,676(5,638)台/日、南側:8,733(8,541)台/日</p> <ul style="list-style-type: none"> 西伊豆町、松崎町の観光交流客数が増加。 <p>H23年度:110万人/年、H26d:119万人/年</p> <p>近年、交通量が増加しているなか、観光交流客数も増加しており、円滑な交通の確保が一層重要となっており、本事業の必要性が高まっている。天城北道路の整備効果を効果的に発揮させるため、本事業の整備によるネットワークの強化が必要である。</p> <p>(2) 事業の投資効果</p> <p>現時点(H29)の分析結果：B/C=1.27</p> <ul style="list-style-type: none"> 総便益(B) 31.02億円 走行時間短縮便益 25.68億円 走行経費減少便益 4.34億円 交通事故減少便益 1.00億円 総費用(C) 24.49億円 <p>建設投資額 24.33億円 維持管理費 0.36億円 用地残存費 -0.19億円</p> <p>伊豆西海岸にある土肥港は、駿河湾フェリー(県道223号)による伊豆地域への海路からのアクセスが可能である。「天城北道路」と一体となる当バイパスを整備することで、道路・航路のネットワーク化も強化され、更なる観光客数の増加が期待できる。</p> <p>(3) 事業の進捗状況</p> <p>【事業費】 84.1%(H29d末見込み:2,103百万円/2,500百万円)</p> <p>【事業量】 0.0% 0m/840m</p> <p>【用地面積】 100.0% 14千㎡/14千㎡</p> <p>【工事費】 83.1%(H29d末見込み:1,963百万円/2,360百万円)</p>					
事業の必要性	<p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 <input type="radio"/> 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
【視点2】	<p>H28dまでに必要な事業用地を全て取得した。トンネル本体工事も順調に進んでおり、H30dに予定される「天城北道路」との同時供用を図るため、引き続き事業の進捗を図っていく。</p>					
今後の事業の進捗の見込み	<p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 <input type="radio"/> 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
【視点3】	<p>新技術・新工法の活用、建設発生土の他工事流用によりコスト縮減を図っていく。</p>					
新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性						
対応方針(案)	<p>(1) 対応方針(案)</p> <p>本事業を(<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し後継続 <input type="radio"/> 中止)する。</p> <p>(2) 理由</p> <p>本事業は、伊豆縦貫自動車道「天城北道路」の開通にあわせた伊豆地域の道路ネットワークの強化につながり、事業も順調に進捗していることから、事業を継続し早期完成を図る。</p>					

一般国道136号 下船原バイパス

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成20年11月)

総括表

I) 総便益 B	31.02 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	24.49 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.27

I) 総便益の算出

①各種費用のH42^{*1}便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	3,215.05	886.70	174.46	4,276.21
整備した場合 B	3,213.76	886.48	174.41	4,274.65

便益	1.29	0.22	0.05 ^{*2}	1.56
A-B	時間短縮便益	経費減少便益	事故減少便益	

- ・「時間便益」: 道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」: 走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」: 道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式より算定しており、条件によってマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	総便益 (億円)
総便益(H31~H80)	31.02 …B

II) 総費用

[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費 用(万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
23.25	24.33	172.36	0.36	0.19	24.49 …C

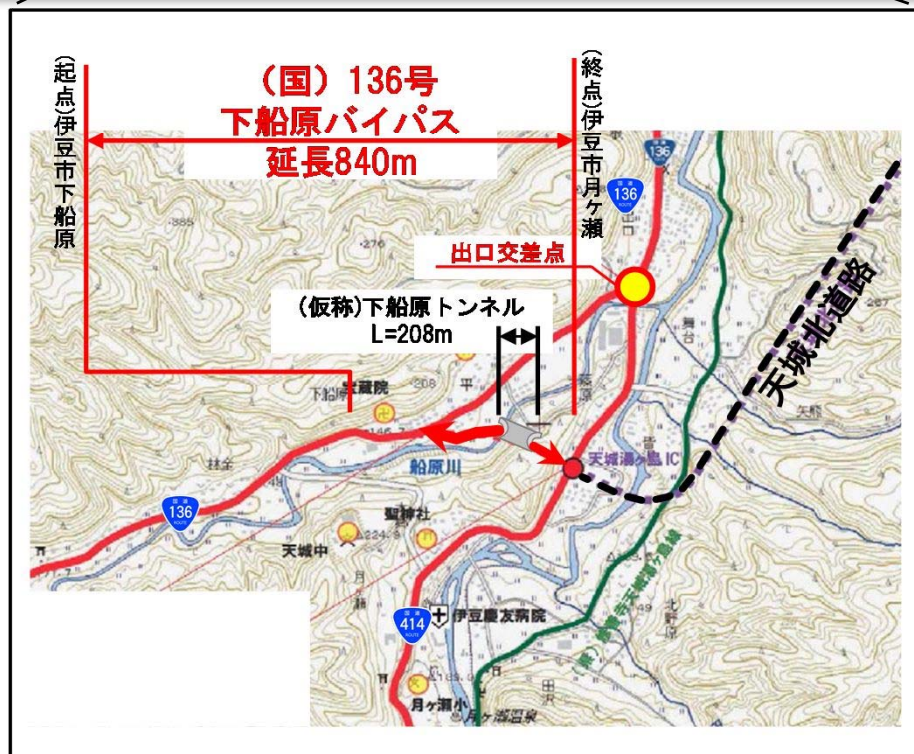
・「建設投資額」 : 建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年度ごとに割引率をかけ、合計したもの

・「維持管理費」 : 整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの

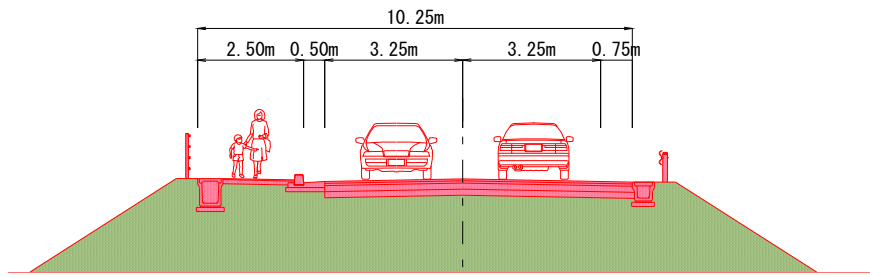
・「用地費の残存価値」: 検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。

・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

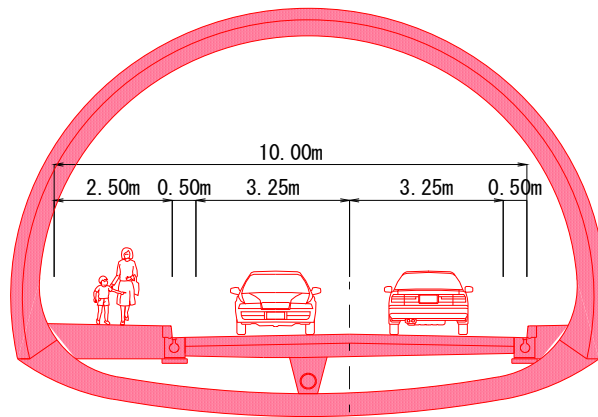
■位置図



■標準横断面図



土工区間(歩道あり)



トンネル区間(歩道あり)

■交通の円滑化



出典：平成29年度(国)136号線が道路交通量調査業務委託(静岡県)



交通の円滑化



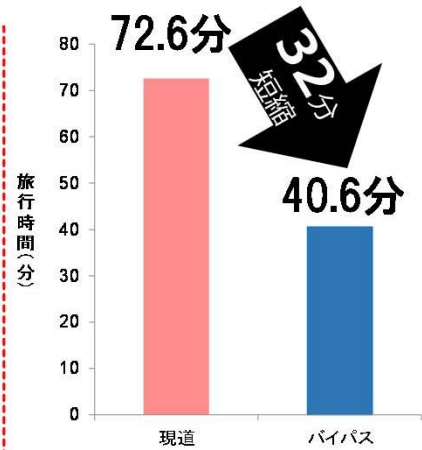
・下船原バイパス及び天城北道路の整備により旅行時間が短縮

東名沼津ICから大平ICまで26分短縮された



大平ICから下船原バイパスまで6分短縮

東名沼津IC～下船原バイパス間

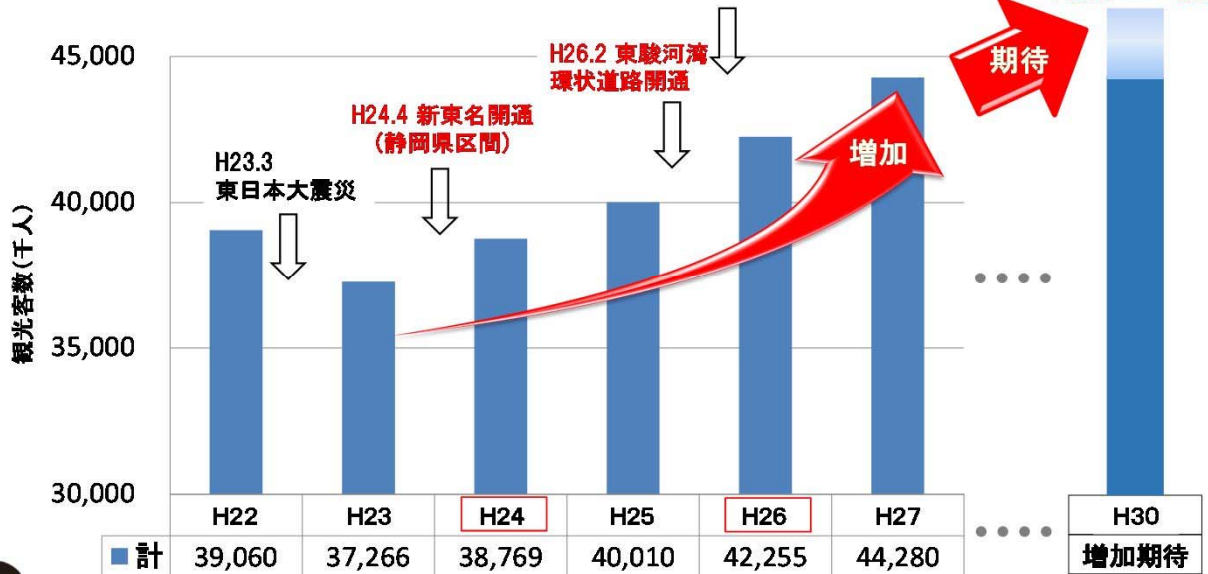


整備前 修善寺IC～大平IC間は、天城北道路を利用
 出典：整備前 H17現況再現
 整備後 H42将来交通量配分結果

産業・観光活性化への寄与

バイパス整備により更なる観光入込客数の増加に期待

伊豆地域の観光客数の推移



道路の整備により伊豆が近くなり観光客の増加に期待
 下船原バイパスにより西伊豆方面への効果もあり
 観光案内にも伊豆がますます近くなることをPRしています。

出典：静岡県観光交流客数の推移
 7市・7町の合計
 沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市
 東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町